

1.1.2.6-08

「から」と「ので」の使い分け

1.1.2.6-08_「から」と「ので」の使い分け_ナレッジ

☞ 「～ので」「～から」は理由を表す代表選手です。

「～から」

自身の主張を強く述べたいときに使います。話し手の心情を表すのに、適した表現です。そこで、お願いするときや謝罪をするときに使うと、こういったニュアンスが生じてしまいます。

「～ので」

状況を配慮し、自身の主張をあまり表に出したくない時によく使われます。そこで、**中立的・客観的な表現**となり、丁寧で、やわらかい表現だと感じます。

- (1)きのうは残業したので、帰りが遅くなった。
- (2)まだ、学生なので、映画は安く見られます。
- (3)全員そろったので、ミーティングを始めます。
- (4)ここは、今評判のお店なので、予約が難しいはずです。

(1)(2)は、後件の事柄の理由、(3)(4)は、(後件の)話し手の判断の根拠、を表しています。

- (5)この本は、具体例が豊富なので、理解しやすい。
- (6)この部屋は、日当たりがよく、駅から近いので、家賃が高い。

☞ 「～ので」は、「～のだ」の中止法からきているので、はっきりと断定できる、確実性を持った条件形式です。

- (7)彼はお金がないので、外食はしない。

1.1.2.6-08_「から」と「ので」の使い分け_ナレッジ



「～ので」は、「～から」と比べると、客観性、確実性の高い表現です。後件の文が、強い意志を表すときは、「～から」のほうが、自然です。

今日は道が混むだろう{○から/×ので}早く出発しよう。

「～ので」には、不確かなことを表す「～だろう」は使えません。

日曜日は道が混むので、電車を利用します。

「～ので」を使うときは、事実関係を論理的に表す文になります。

「～から」は、後件の文に、いろいろな意志表現を取ることができました。



(1)と(2)、「～から」と「～ので」のどちらが、自然な文だと感じましたか。

(1)聞こえない(から/ので)、マイクを使ってください。

(2)A:どうしたんですか。待ちくたびれましたよ。

B:すみません。出かけに電話がかかってきた(から/ので)、いつもの電車に乗れなかったんです。

解釈:

(1)と(2)両方とも、「～ので」を使った方が、しっくりしませんでしたか。

(1)で「～から」を使うと、頼み方が、自分中心で、自分が聞こえないから、といった印象を受けます。

(2)で「～から」を使うと、遅刻した責任は、自分にあるのではなく、電話のせいだと、責任転嫁している印象を受けます。

1.1.2.6-08_「から」と「ので」の使い分け_ナレッジ

👉 「～ので」は、丁寧な依頼をするときに、ふさわしい表現だと言えます。

(1) 聞こえないので、マイクを使ってください。

(1') 聞こえないので、マイクを使っただけませんか。

大きな会場で、客観的に見て、マイクが必要だと思ったときに、発言しました。

(1)よりも、(1')の方が、もっと自然な感じがしませんか。

(1') 聞こえないので、マイクを使っただけませんか。

(1'') 聞こえませんが、マイクを使っただけませんか。

「から」を使うと、話す人の意志や考えが強く出てしまうので、相手に反感を持たれてしまうかもしれません。

そこで、お願いするときには、「ので」が使われます。

(2) 冷蔵庫にケーキが入っているので、おやつに食べてください。

(3) 机の上にあるので、取ってきてください。

(2)(3)のように、後件の文に「依頼」などを使って、相手に何かを頼むときに多く使います。

(2)は「冷蔵庫にケーキが入っている」ことをもとに、「食べて」とお願いしています。

(3)は「机の上にある」ことをもとに、「取ってきて」とお願いしています。

これは、「お願いするにあつたての、根拠・条件」を示しています。

👉 「～ので」の前を、丁寧形にすると、より丁寧な表現になります。

(1) 11時から2時までは、禁煙ですので、ご協力ください。

(2) 消費税値上がりにつき、4月1日より、下記料金になりますので、あらかじめご了承ください。

相手に協力を求めるとき、「丁寧形+ので、丁寧形」を使い、自分の主張ではなく、事情説明のような雰囲気にしてしまうのです。

1.1.2.6-08_「から」と「ので」の使い分け_ナレッジ

☞ 会社や駅のホームでよく使うフレーズも、「～ので」の前を、丁寧形にしています。

- (1) 折り返しお電話いたしますので、少々お待ちくださいませ。
- (2) 危険ですので、白線の内側までお下がりください。
- (3) ドアが閉まりますので、ご注意ください。
- (4) あした伺いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

☞ 相手のため、特定個人のための「から」。

- (1) 危険だから、入らないでください。
- (2) 危険なので、入らないでください。

不特定多数の人に、呼びかける場合は、押しつけがましくならないように(10)の言う方ですが、しかし、特定の個人に、言う場合には、(9)のように言う方が、聞き手に届きやすいはずです。

☞ 「～から」は、話し言葉に使いますが、「～ので」は、雑誌からの引用、書き言葉にも使われます。

- (1) 時間がない{○から/×ので}、急げ。
- (2) 危ない{○から/×ので}、触るな。

ただし、後件の文が丁寧形のときは「～ので」も使えます。

- (1') 時間がない{○から/○ので}、急いでください。
- (2') 危ない{○から/○ので}、触らないでください。

(1) (2) のような文は話し手の気持ち(自己主張)が強く出る表現ですが、(1') (2') のように、丁寧形にすると、相手への配慮が入るので、使えるようになります。

1.1.2.6-08_「から」と「ので」の使い分け_ナレッジ

👉 上から目線で相手のために言う場合は、「から」を使います。

- (1) 危ないから、ここで遊んではいけません。
子供にだったら、
- (2) 危ないから、ここで遊んじゃだめよ。

👉 終助詞的用法の「～ので」（「～ので」も、終助詞的に使われることがあります）

- (1) (会議で、コピーが一部足りない) すぐ、コピーしてきますので。(……)
- (2) (会議終了時間になってしまったが、すべては終わらなかった) あとは、私がやっておきますので。(……)

この「～ので」も、直接的な理由を表しているとは言えませんが、(……)の箇所を考えてみます。

- (3) (会議で、コピーが一部足りない) すぐ、コピーしてきますので。(少々お待ちください。)
- (4) (会議終了時間になってしまったが、すべては終わらなかった)
あとは、私がやっておきますので。(どうぞ、お先にお帰りください。)

このように、(……)内の文を考えてみると、
「～ので」は、「お願いするにあつたての、根拠・条件」を示しているともいえます。
【理由を表さない「～ので」】と、同じと言えるでしょう。

終助詞的用法の「～ので」は、
後件の文を言わないことによって、聞き手に自分のメッセージや気持ちを伝えています。6

1.1.2.6-08_「から」と「ので」の使い分け_ナレッジ



「～から」と「～ので」は、多くの場合、置き換えができます。
この比較は、絶対的なものではなく、こういう傾向がある、といった、大きなくくりです。

	「～から」	「～ので」
文体	話し言葉。論文には使えない。	話し言葉、書き言葉のどちらにも使える。
自己主張度	自己主張度強。話し手の気持ちをのせて、理由を述べる。	自己主張よりも、まわりに対し配慮したいときに使う。 確実性の高い因果関係、事実関係を中立的に述べる。
意志表現	いろいろな意志表現が使える。	「命令」といった、強い意志性のある表現は使えない。
丁寧度	話し方により、丁寧さを欠くことになるので、初級で導入する際は、このことに注意を要する。	丁寧。「～ます」の「～」に、「ます/です」の丁寧体を使うと、より丁寧な表現ができる。